

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人吉田向陽会	代表者	川原園勝夫	法人・事業所の特徴	校区コミュニティに加入して地域との交流と、介護相談（特に認知症対応）に力を入れています。また当該施設の2階を解放して「子育て（支援）サロン」や「囲碁同好会」、地域の公園を活用して「グランドゴルフ同好会」などを主催しています。地域の赤ちゃんから小中学生、高齢者の方まで幅広く、当施設が憩いの場として活用して頂けるように努めています。
事業所名	吉田太陽の郷	管理者	仮屋たつ子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	5人	3人	人	1人	1人	人	4人	人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価・ミーティング様式1～9「前回の改善計画」欄参照。	概ね良好な結果が残せた。本人、家族・介護者が抱えている問題やニーズ、「変化」をミーティングで検討し、情報を共有して職員全員で真摯に取り組んできた結果だと考える。職員が自由に発言できる環境を毎日提供できたことが貢献に繋がった。	職員全員で共通の問題に、前向きに取り組んでいるという姿が見られる。今後も臨機の対応能力が求められる現場なので、常に自己評価を繰り返して対応能力を高めることに取り組んで欲しい。	内部研修の充実と外部研修への取り組みで、職員のスキルアップに努める。また接遇に力を入れる。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所に隣接してできた公園を通じて、地域の方と積極的に交流をはかり、事業所に訪ねてきやすく居心地の良い環境の創造に努め、利用者・家族、地域の方に提供できる雰囲気作りを精進する。	グランドゴルフ同好会の公園の使用許可が下りたことで、地域の高齢者の方々と交流が深まった。また子どもたちや校外学習で公園を利用されていた学校の先生方にも声掛けを行い、事業所に交流に来て頂いています。	隣接する公園を上手く活用して地域とのかかわる努力をしている。職員が明るく事業所の雰囲気が良いので、施設の紹介もしやすい。事業所の場所が分かり難いので広報に力を入れてみられたら良いと思う。	地域の方々と挨拶（声掛け）を交わし、職員が地域に溶け込むことで、事業所に訪れやすい雰囲気を作る。事業所の立地場所が分かり難いということので広報に力を入れる。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事やイベントでの交流を媒体として、声掛けを行なうことで情報収集や事業所の取り組みを知っていただく。地域の方々が訪れやすく頼れる施設になれるように一層の地域交流を進めていく。	今年度は校区コミュニティに参加できたこと、地域の小学校と新たに招待交流ができたことで大きく前進できた。高齢者が老若問わず触れ合う機会を設けることに貢献できた。新聞媒体での広報活動で、地域の施設へ対する認知度の浸透に努めた。	地域との交流は、ややもするとマンネリ化しやすい所がある。そのような点に注意してかかわりを保って欲しい。また事業所を「訪ねてみたい」と思えるような魅力ある試みをして欲しい。	「サロン」と「同好会」に力を入れてイベントを企画する。事業所の解放と公園を活用することで、老若男女問わず、地域とのかかわりに積極的に取り組む。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	年間計画を立てて、地域の行事・イベントに参加していく。参加することで利用者以外の地域の方、「心配な方」ともかかわっていき、時間を作り自宅への訪問、情報交換、情報提供に積極的に取り組んで行く。	地域の敬老会イベントを軸に各自治会からの招待、行事への参加を積極的に行いました。「馴染みの顔に会える」と、利用者の方々にも喜ばれ、また地域の方と職員との繋がりもでき、情報交換・提供、声掛けの場として活用できました。	地域の方へ事業所の特徴や役割をもっとアピールして欲しい。職員アンケートの結果を受けて、民生委員側の施設に対してのアピール不足がわかった。もっと福祉施設とのかかわりを密にするように民生委員の会議で提案したいと考える。	地域・校区の行事やイベント情報を集め、年間計画を立てて積極的に参加していく。参加した際には、職員が地域の方への声掛けを心がけ「心配な方」などの情報収集に努め、適切な対応に努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で事業所の活動内容を報告し、委員の方も積極的に取組みを地域で紹介していく。また委員の方から提供された情報を事業所は積極的に検討して取組み。運営推進会議と事業所が一体となり、よりよい支援を目指す。	事業所からの活動報告を元に、事例報告や検討を通して結果を残すことができた。また委員の方々からの情報提供、協力でグランドゴルフ同好会の立ち上げ、地域の行事へもスムーズに参加でき、事業所はそれに応えられることが概ねできていた。	会議では事業所を取り巻く近状を知る上でも有意義に機能しているし、そこから運営上のヒントを得られることも多いのではないかと考える。地域の中で必要と思う方に事業所の紹介を行っている。事業所側も広報紙を発刊しているので説明がしやすい。	事業所の相談受付窓口を明確化して、法人全体の施設の情報を保持することで、相談内容の検討、よりよい提供を目指す。また運営推進会議に報告を行い事業所の評価をつけて頂く。
F. 事業所の防災・災害対策	年間計画を立てて夜間帯を想定した訓練、また実際に夜間の訓練を組み込む。近隣住民及び運営推進委員が参加し、協働した避難訓練を組み込み行う。	夜間対応訓練を行った。日中間と違い改善が必要な点が多数上がり、外通路に外灯を付けるなど、その他善処を行なった。今年は講師ボランティアを含む分遣隊からの指導、救命訓練、近隣住民の方に参加・協力をして頂いての防災避難訓練を実施した。	事業所が地域の防災に参加している点は評価できる。運営推進委員として施設の防災訓練に積極的に参加したいので案内を頂きたい。地域が被災した場合の避難場所として施設を開放して欲しい。	年間計画で防災訓練の回数を増やす。近隣住民や運営推進委員の参加を積極的に促し、協力して頂くことで、事業所の救命・防災訓練に評価をつけて頂く。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 3 日 (14:00~14:20)
------------------	-----	---------------------------------

1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員3名
--------------------	------	---------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	10人	6人	0人	0人	16人

前回の改善計画

①本人の基本情報を職員へ開示する。特に治療中の病気と既往歴に関しては職員が把握しやすいように工夫する。②本人のニーズと情報を職員で共有する。③家族・介護者のニーズと情報を職員で共有する。④本人の生活習慣を尊重するために、生活環境と家庭環境を把握して職員で共有する。

前回の改善計画に対する取組み結果

入所が決定した時に基本情報と介護(看護)サマリーを職員に開示した。入所後は、朝礼とミーティングの二段構えで得られた情報を共有した。事前に得ていた既往歴と服薬情報が合致していない場合などもあり、都度、家族・介護者やかかりつけ医に確認を行ない、また入所後のバイタルデータを柱に相談を行うなど体調管理に努めた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	9人	7人	0人	0人	16人
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	8人	8人	0人	0人	16人
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	8人	7人	1人	0人	16人
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	6人	10人	0人	0人	16人

できている点

利用開始前にミーティングで、得られた基本情報を使い「想定される事態」の検討を行なっている。また利用開始後からの対話と傾聴、「声にならない声」をミーティングで検討して職員が共有できるように努めている。ただし押し付けにならないように本人や家族・介護者との距離間を大切にしながら、施設に早く馴染めるような配慮をしている。

できていない点

事前に得ていた情報と現実との違い(良い意味でも悪い意味でも)があり混乱が起きた。職員が実際に接して体験を踏まえながら、都度ミーティングで検討し直しているが、本人の発言に一貫性のない場合、本人と家族・介護者のニーズや考え方の違いが如実に現れた場合など、臨機に対応に一部の職員がついていけない場面もあった。

次回までの具体的な改善計画

本人と家族・介護者の間にニーズの齟齬がある場合の対応に、どのように取り組んでいけるかが今後の課題。役職以上の職員が家族・介護者と面談を重ねていき、本人と家族の「思い」の溝をどれだけ埋めていけるか、またそれをミーティングに反映して、職員が情報を共有することで可能な限り本人と家族・介護者のそれぞれの「思い」に応えられるように支援できるように努める。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 3 日 (14:20~14:40)
------------------	-----	---------------------------------

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員3名
---------------------------	------	---------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	8人	6人	2人	0人	16人

前回の改善計画

①本人との対話・傾聴、家族・介護者からのニーズを職員へ反映して共有できる環境を整える。②職員が得た情報を活かして「～したい」が実践できる環境を整える。③当面の目標と「本人の目標（ゴール）」を明確化して職員で共有する。

前回の改善計画に対する取組み結果

個浴式を活かして本人と職員が1対1の時に、リラックスした状態で世間話しを交えながら情報収集を行った。ミーティングで情報を確認、検討を行ない共有した。この方法を主にしたところ、利用者も構えるところがなく必要以上の情報を得られることができて、その後の支援に大きく役に立った。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
① 「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか?	5人	6人	4人	1人	16人
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	6人	8人	2人	0人	16人
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	5人	6人	5人	0人	16人
④ 実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	6人	5人	4人	1人	16人

できている点

対話・傾聴・声掛け・目配り・キズキで、本人の「～したい」は常にミーティングで取り上げて検討し、可能な限り支援に繋げることができている。また施設で判断しかねる課題には、家族・介護者に訪問（もしくは電話相談）を行い意見交換をしている。家族・介護者に協力をもらいつつ支援に繋げる場合もある。

できていない点

提供を受けている情報に問題がある場合や、目標が漠然としている場合など、当面の目標と「本人の目標（ゴール）」を理解できている職員とできていない職員との間に温度差がある。また言葉を言語化することができない本人に対しては、「～したい」の理解が難しい（できない）ために、言葉を言語化できる本人への支援を優先してしまっている。

次回までの具体的な改善計画

当面の目標と「本人の目標（ゴール）」を明確化することと、温度差を縮めることが今後の課題。ミーティングで検討を重ねていくと共に、些細な情報でも共有ができるようにする。また職員が解からないことを「解からない」と質問できる環境を作る。言葉を言語化できない本人の目標は、家族・介護者からのニーズを可能な限り実践することでよりよい支援に繋げていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 4 日 (14 : 00～14 : 20)
------------------	-----	-------------------------------------

3. 日常生活の支援	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員3名 送迎担当者1名
------------	------	-----------------------------

◆前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	13人	0人	0人	16人

前回の改善計画

①基本情報とケアプランを元に、本人の生活環境を把握する。それを職員が共有する。②対話・傾聴・声掛け・目配り・キズキを通して、ひとりひとりに合った対応ができるように実践する。それを職員が共有する。③家庭で生活をしている時と同様に、よりよい精神状態と生活環境を施設でも提供できるように努める。

前回の改善計画に対する取り組み結果

本人の状況に合わせるケアに努めた。言葉の言語化が難しい部分は家族・介護者に相談をして、よりよい方向性をミーティングで検討して取り組んだ。送迎時に家族・介護者と接する機会が多いため、役職が定期的送迎を代行してニーズを聞くことに努めた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1人	9人	5人	1人	16人
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	6人	8人	2人	0人	16人
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	4人	9人	3人	0人	16人
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	8人	7人	1人	0人	16人
⑤ 共有された本人の気持ちや対象の変化に即時的に支援できていますか?	7人	6人	3人	0人	16人

できている点

本人、家族・介護者からの情報をミーティングで検討し、実践して、よりよい支援を概ね実行できた。情報が不足している場合には家庭への訪問を始め、かかりつけ医への問い合わせ、必要があれば直接会いに行き情報の補填を行った。言葉を言語化できない本人や、認知症状が進行している本人とのコミュニケーションは難しくもあるが、所作や表情などの変化を観察して、本人の状況に合わせた支援に努めている。

できていない点

訪問を試みても面談できない家庭もあり、本人からしか状況を把握できない家庭もある。また言葉を言語化できない利用者の所作や表情を自己判断をして、変化を見誤ってしまう職員もいた。「以前の暮らし方」10個以上は、情報も多く把握が難しい。また必要な情報を優先してミーティングで検討しているので、必然的に優先順位は低くなってしまった。

次回までの具体的な改善計画

言葉を言語化できない本人に対しては、バイタルデータを柱に様々な状況下でも対応できるように記録を残して、マニュアル化を図る。言語化できる本人には対話と傾聴を奨励することで、本人のこれまでの経験、思い、ニーズを拾えるように努める。それらを活かせるようにミーティングで共有してよりよい支援に繋げていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 4 日 (14:20~14:40)
------------------	-----	---------------------------------

4. 地域での暮らしの支援	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員3名 送迎担当者1名
---------------	------	-----------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	7人	8人		1人	16人

前回の改善計画

①本人のニーズを受け止めて年忌、法要、彼岸などを大切にできるように支援する。②地域、校区、集落の催しや集会には積極的に参加して、これまでの関係が途切れないように、また大切にできるように支援する。③本人との関係を維持するために、施設へ気軽に面会に来れるような声かけを交友者に発信する。

前回の改善計画に対する取組み結果

地域のイベントや校区の催しなどに招待を頂けるほど積極的に参加することができた。報恩講や敬老会に参加することで、本人と地域、校区、集落の方々との繋がりの維持ができ、また施設との繋がりにもなった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	6人	6人	3人	1人	16人
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	7人	5人	3人	1人	16人
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	2人	7人	6人	1人	16人
④ 本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	2人	4人	8人	2人	16人

できている点

「なじみの顔」に会えるようにと、積極的にイベントや催しに参加できた。また招待を頂いたことも大きかった。新しく知り得た情報、新しい発見はミーティングで報告して情報の共有を行った。また気軽に施設を訪ねて下さるように声掛けも行った。

できていない点

「通い」を利用されている方の夜間の情報や、施設を休まれている時の家庭での状況など情報が不足している部分も多い。事前に受けている情報でしか把握できない場合も多い。また家族・介護者への接し方と職員への接し方は違うと考えられるので、受けている情報だけでは判断が難しい。

次回までの具体的な改善計画

関係が途切れることがないように可能な限り積極的に支援を行なう。職員が直接接していない時間については、本人や家族・介護者からの対話・傾聴と連絡帳を元に、訪問を行うなど、可能な限り情報を補完して支援に繋げていけるように努める。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 5 日 (14:00~14:15)
------------------	-----	---------------------------------

5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員4名
----------------	------	---------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	8人	7人	1人	0人	16人

前回の改善計画	①本人、家族・介護者のニーズを対話・傾聴して、本人に合った支援に努める。②本人、家族・介護者の「変化」に対して、柔軟に対応できるように全ての部署の職員が報告・連絡・相談を常に行なう。
---------	---

前回の改善計画に対する取組み結果	役職が定期的を送迎を代行して家族・介護者と直接会話することで、家庭が抱えているニーズを聞きとることに努めた。また本人からのニーズは個浴を活用して行った。得られた情報をミーティングで検討して、早期対応に繋がった。
------------------	---

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	5人	8人	3人	0人	16人
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	10人	5人	1人	0人	16人
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	10人	6人	0人	0人	16人
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	8人	7人	0人	1人	16人

できている点	自治会や民生委員の方々からも情報提供を頂いて活かしている。地域ボランティアの方々からの協力も頂き、保清などの健康管理にも努めた。ニーズや「変化」については、本人とは対話・傾聴を主に、家族・介護者へは連絡帳の活用と定期的に自宅への訪問を重ねて取組んだ。
--------	---

できていない点	夜勤専門の職員には「通い」のみの方の情報が届き難かった。個人ノート、連絡ノート、カンファレンス議事録などに必要と思われる情報は記入してあり、申し送りも行っているが、突然の宿泊などで接し方に戸惑う場面もあった。「通い」のみの方との接点も少ないために、家族・介護者から電話連絡が入った時に「行き違い」も発生したことがある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	夜勤者研修を取り入れたことで大幅に緩和されてきたが、まだまだ不十分であることが課題。本人の基本情報を読める環境は整えてあるので、研修を使い今後の対応に努める。また本人、家族・介護者からのニーズを更に受け取ることができるように連絡帳の書式の改善を行なう。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式		実施日	平成 29 年 2 月 5 日 (14:15~14:30)			
6. 連携・協働		メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員4名			
◆前回の改善計画に対する取組み状況						
個人チェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	8人	1人	2人	16人
前回の改善計画						
①催しやイベントに積極的に参加する。②校区、学校、公共機関との繋がりを強めて、互いに行ききできる環境を作る。③施設を地域に開放してイベントや防災活動などに活用して頂けるように提案する。④必要な場合には、かかつけ医や民生委員、地域包括支援センターへの相談・報告を通じて支援する。						
前回の改善計画に対する取組み結果						
医療機関や校区コミュニティ主催の研修、自治会・学校関係主催の催しへの参加はできていた。子育て支援センターとの連携である「サロン」、施設が主催している「囲碁同好会」「グランドゴルフ同好会」、小学校行事への参加など多岐に渡り各関係者と連携を図った。						
◆今回の自己評価の状況						
確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	4人	4人	3人	5人	16人
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	4人	4人	3人	5人	16人
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	6人	6人	2人	2人	16人
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	7人	4人	3人	2人	16人
できている点						
この一年間、積極的に参加できた。校区コミュニティへの参加も行った。今期から始まったグランドゴルフ同好会も校区をまたいで幅広い地区から参加して下さっている。小学校からの施設慰問もあり、地域に根差した施設になってきている。						
できていない点						
職員により参加に対する温度差がある。関心が薄い職員に無理に参加を促す訳にもいかずに苦慮した。また参加したくてもシフトの問題などで難しい場合には考慮するなど改善が必要。						
次回までの具体的な改善計画						
職員の関心度の温度差を縮めることが今後の課題。職員全員参加型の催しの企画・提案を行なえる環境を作る。また利用者と一緒に職員も楽しめるイベント企画、職員が「自分が興味の持てる」研修への参加を促し、少しでも関心が高まるように努める。						

事業所自己評価・ミーティング様式		実施日 平成 29 年 2 月 5 日 (14 : 30～14 : 45)				
7. 運営		メンバー 主任1名 常勤職員1名 パート職員4名				
◆前回の改善計画に対する取り組み状況						
個人チェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	9人	4人	1人	2人	16人
前回の改善計画		①職員が声を上げることができるように、ミーティング内で時間を設ける。②業務指示書を柱に、都度、内容の改善・修正・見直しを行い、業務に支障をきたさないようにする。③本人、家族・介護者らの相談・苦情に早急に対応できるようにマニュアル化する。④地域に根差した活動ができるように広報活動を行い、地域のイベントへの参加に取り組む。				
前回の改善計画に対する取り組み結果		ミーティングの最期に、職員から意見や相談を受け付ける時間を新たに設けた。毎日受け付けることで早期解決・早期改善に繋がった。電話対応マニュアルを掲示して、地域、本人や家族・介護者からの問い合わせに適切に対応できるように指導を朝礼で取り入れている。新聞で広報活動を行っている。相談の問い合わせや、質問の電話など多岐にわたり地域に周知される施設になりつつある。				
◆今回の自己評価の状況						
確認のためのチェック項目		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人 数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているですか?	8人	7人	0人	1人	16人
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	8人	7人	0人	1人	16人
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	6人	8人	1人	1人	16人
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	7人	7人	1人	1人	16人
できている点		朝礼とミーティングで毎日、自由な意見を発言できる環境ができている。また「出た意見は否定しない」という取り決めがあり、発言しやすい工夫も行った。また毎日のミーティングがニーズや苦情を検討できる場として定着した。新聞での広報活動や問い合わせの電話にて、地域の施設に対する認知度も上がってきていると感じる。				
できていない点		認識の差があるが、調理専門員・送迎専門員への周知が進んでいない。ミーティング議事録や連絡ノートに提案・質問、返信を記入する欄も設けているが、「自分は〇〇だから…」と関心の薄さが出ている。また昨年よりは地域への取り組みは行ってきたが、実績としてはまだまだである。				
次回までの具体的な改善計画		個別対応を随時行う。また朝礼を活用して調理専門員・送迎専門員からの意見、提案の検討、決まり事の周知、実践を行ってもらおう。職員ひとりひとりではなく、全員がチームとして取り組める環境を作る。また「同好会」や「サロン」を活用して、地域と協働できる取り組みをおこなう。				

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 6 日 (14 : 00～14 : 20)
------------------	-----	-------------------------------------

8. 質を向上するための取組み	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員3名 夜勤者1名
-----------------	------	---------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	7人	3人	3人	16人

前回の改善計画

①定期的に内部研修を設ける。②積極的に外部研修に参加できるように、臨機にシフトの調整を行える環境を整える。③日勤者と夜勤者が意見交換、情報を共有できる研修を定期的に行える環境を整える。

前回の改善計画に対する取組み結果

簡易な処置・対処法などは朝礼で指導を行い、ミーティングで定期的に事例検討を取り入れている。外部研修の案内は掲示を行い、受講希望者のシフト調整を行って出席してもらっている。夜勤者全員を集めた夜勤者研修を、毎月日中に行える環境を整えたが、日勤帯との合同は年に2回しか行えなかった。懸案事項は当日のリーダーが間に立ち、連絡(申し送り)ノートで補填を行っている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	4人	7人	4人	1人	16人
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	3人	5人	6人	2人	16人
③ 地域連絡会に参加していますか	3人	1人	6人	6人	16人
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか	5人	2人	5人	4人	16人

できている点

医療機関や自治会、消防が主催する研修や見守りメイトの受講に積極的に参加することができた。研修記録を活かしてミーティングで事例報告を行っている。また夜勤者に対しては、夜勤者研修で事例検討などの内部研修を新たに取り入れた。

できていない点

他施設が主催する研修などへの参加が行えていない。また参加したい内容の研修期間が長期だった場合、シフトの調整を施設にお願いすることが心苦しいという理由で遠慮をしてしまう。

次回までの具体的な改善計画

職員が気兼ねなく研修に参加できるようにシフトの調整を行い、そのために必要な環境を整える。リスクマネジメントについての研修をミーティングに取り入れ、実践していく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 29 年 2 月 6 日 (14:20~14:40)
------------------	-----	---------------------------------

9. 人権・プライバシー	メンバー	主任1名 常勤職員1名 パート職員3名 夜勤者1名
--------------	------	---------------------------

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	7人	9人	0人	0人	16人

前回の改善計画

①「身体拘束0」を目標にミーティングで検討して、実現に向けて職員全員で取り組む。②「虐待0」を目標に入浴介助ノートを中心に、身体異常の記録を残していく。また、日々の「変化」に対応できるように、常にミーティングで検討を繰り返す。③施設の理念、ポリシーを順守し、実践することでプライバシーの保護・個人情報の守秘義務を徹底する。

前回の改善計画に対する取組み結果

高齢者虐待防止委員会と身体拘束防止委員会で、検討を行っている。委員会の検討内容をミーティングへ下ろし、指導と実践に取り組んだ。入浴介助ノートを活用して記録を残し、当日判明した症状については、その日の内に家庭への連絡を徹底した。朝礼にて理念・ポリシーを唱和することで、毎日、再認識する機会を設けている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	8人	6人	2人	0人	16人
② 虐待は行われていない	15人	1人	0人	0人	16人
③ プライバシーが守られている	14人	2人	0人	0人	16人
④ 必要な方に成年後見制度を活用している	8人	4人	0人	4人	16人
⑤ 適正な個人情報の管理ができている	11人	5人	0人	0人	16人

できている点

高齢者虐待防止委員会・身体拘束防止委員会で検討された内容を、ミーティング・夜勤者研修を通して実践と防止に繋げている。入浴担当職員の身体記録、またキズキに関しては当日中に家庭への連絡など、家族・介護者から感謝されたことも多い。プライバシー・個人情報保護に関しては朝礼で理念・ケアポリシーの唱和、またミーティングで議題に挙げる場合には、イニシャル（もしくは番号）で呼び合い個人名を出さないように努めている。

できていない点

家族との合意の上、抑制帯を使用して身体拘束を行って一年が過ぎた利用者がある。拘束を外すと転倒リスクが格段に上がるので、外したいが外せないのが現状。本人が言葉を言語化することができないので、職員ひとりひとりが交代で必ず接するように努めている。プライバシー・個人情報には気を付けているが、日常会話で出てきた名前が、本人や家族・介護者の「知っている人」ということが度々あった。既に故人になっていた時など、本人に余計な心労を与えてしまったことがある。成年後見人制度を活用できる利用者が入所されたことがないのでわからない。

次回までの具体的な改善計画

「身体拘束0」は最終目標。抑制帯を外す時間を長くすることに努める。手引きでの散歩、布団（畳）の上での介助など、転倒リスクに気を配りながら接する努力を行なう。虐待防止については、今期と同様に早期発見・早期予防に努める。個人情報・プライバシーについては継続して喚起を促し、書類関係の取り扱いは職員が常に所定の場所に置く（しまう）。必要な方には、成年後見人制度を活用する。